



Community-Based Resource Managementの発展

新しい漁業管理，資源管理の潮流

中央集権的な漁業管理： 「共有の悲劇」の元凶

中央集権的な漁業管理

欠点

- 1) 管理を実施するための人員，体制，予算の不足
- 2) 地域の漁業実態や漁民の意向が反映されにくい
- 3) 地域社会が培ってきた資源利用に関わる知恵，慣習を無視

地域漁業の実情，資源の実態に適した利用者参加型の
管理方式への転換

- 底流
- 1) 伝統的な地域資源・環境管理への再評価
 - 2) コモンズをめぐる議論の進展

中央集権的な漁業管理とは相容れな かった漁民参加の論理

伝統的漁業管理, 慣行に
対する再評価

Bottom-up Approach

例 サシ, パングリマラウト

Self-management (SM)
(自主的管理)

地域・漁民に管理権
の一部を委譲

Decentralization
Approach

Institutional Management (IM)
(制度的管理)

結 合

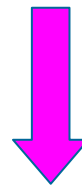
Community-Based Resource Management (CBRM)

地域範囲：
コミュニティ

参加しやすく、意思が反映しやすい地理的
空間と人間的まとまり

漁業・資源管理の
新しい方式

地域開発の新しい
方式



トップ・ダウン型漁村開発と漁業管理の
軌道修正

持続的な‘開発’と‘利用’を一体的にめざす
総合的な戦略として構想

CBRMの4つの構成要素

Self-regulatory Management (SM)

自律

参加

Stability (安定性)

Formalization (制度化)

Community-based MANAGEMENT

De-officialization
(非行政化)

De-centralization
(非中央集権化)

管理

効率性

Government-based Management (GM, IM)

表 東南アジア CBRMの種類と特徴 (資源管理)

	目的	特徴
1 漁場管理型	操業秩序の維持や漁場利用の効率化	漁業のゾーニング, 特定漁具使用域の設定, FAD・AR周辺操業規制
2 投入量管理型	過剰な漁獲努力量・維持・設備の縮小	漁具規制, 休漁期間, 漁船規模規制, 当番出漁
3 加入資源管理型	卓越年級群を含む天然の加入群の有効利用	小型魚保護による固体の増重量, 小型魚再放流, 魚体規制, 網目規制
4 栽培資源管理型	種苗放流と結合した天然・栽培資源の有効利用	3の発展類型。人口種苗放流による資源の底上げ。
5 再生産資源管理型	資源の維持・増大に必要な親魚量の確保	産卵親魚の保護, 産卵期の禁漁, 抱卵親魚の再放流

CBRMの目標（成功への条件）

1) 参加漁民, 住民に対する管理効果の平等性

「効果の均等化」が参加者の合意の前提

2) 管理の柔軟性

対象とするものが変動性の激しい野生生物(硬直的な対応はできない)

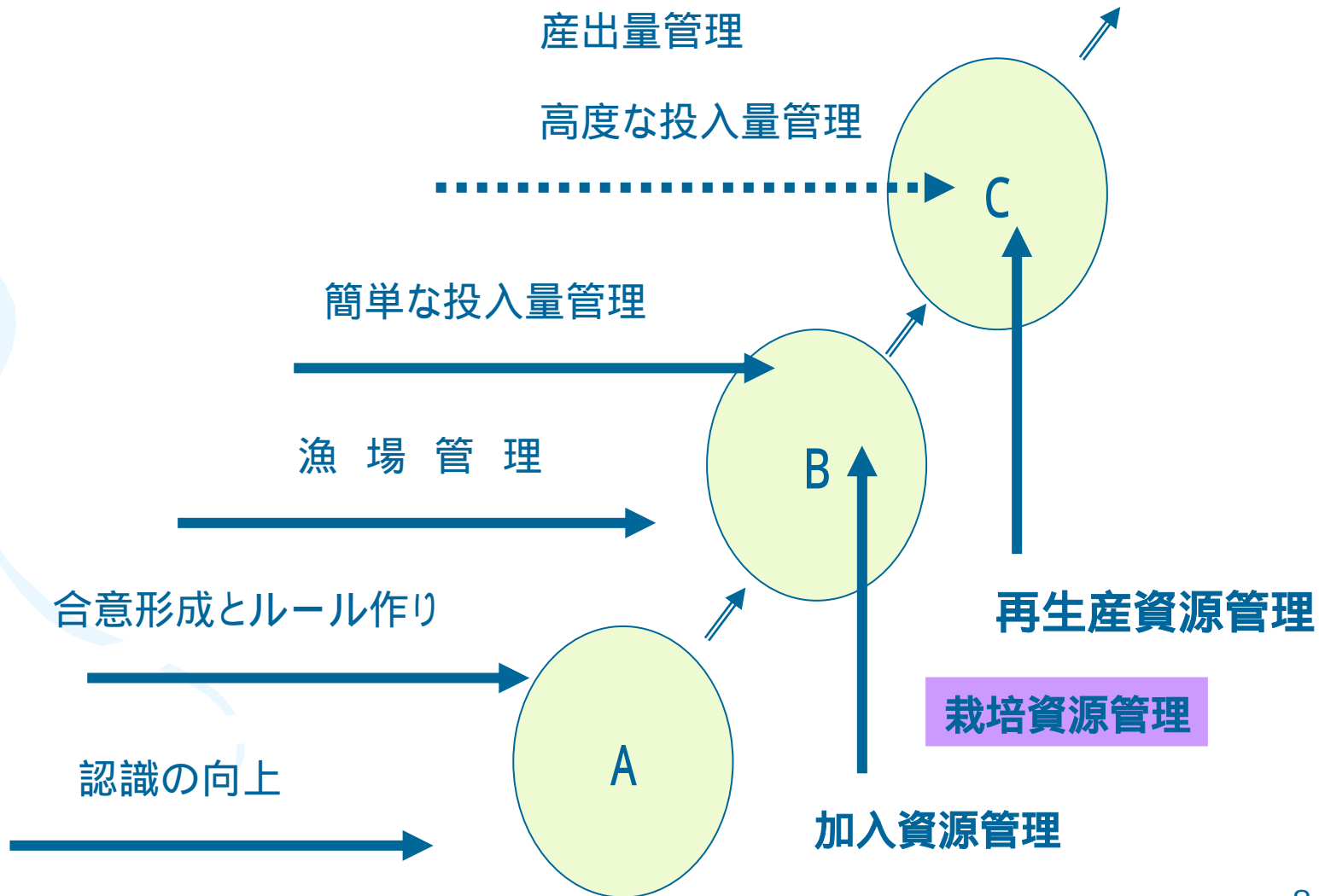
3) 管理形態の多様性

管理手法の種類、「効果の均等化」をはかる多種多様の方式、運営の柔軟性

4) 長期的展望をもった問題意識

いきなり高度な管理体制ができるわけではなく、類型的発展パターンなどを長期的に展望

CBRMの発展パターン (I)



CBRMの発展パターン (II)

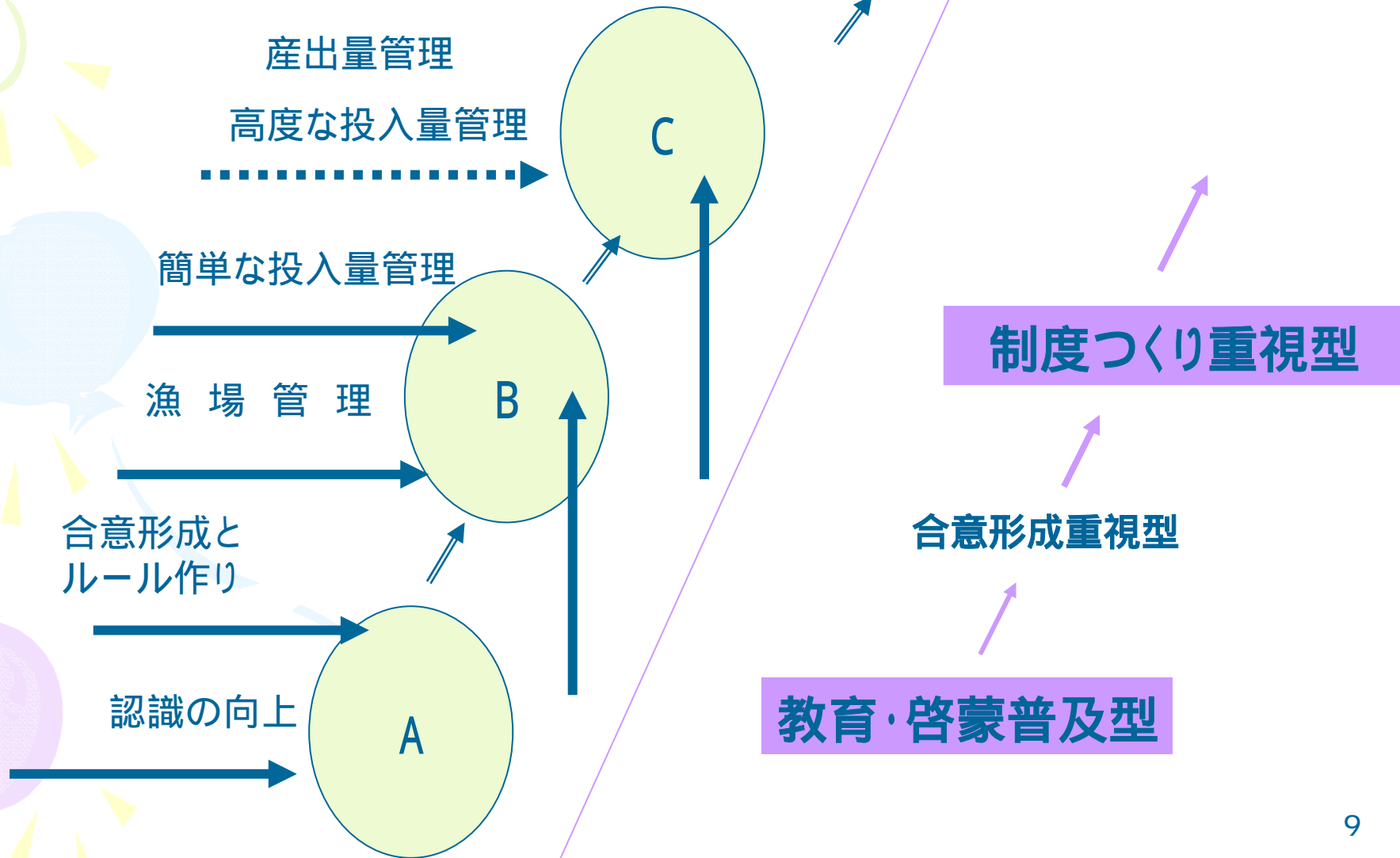


表 CBRMプロジェクトの発展過程

パイロット・
プロジェクト段階

ネットワーク形成段階

政策提案段階

経験蓄積

経験交流の促進

経験を踏まえた
政策提案

先進事例の積み重ね

周辺部への技術移転

CBRMの戦略化

地域内管理

広域管理対応

行政・制度
改革

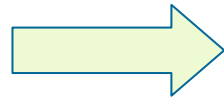


CBRMからCo- Management への発展

参加型資源管理方式と
政府の役割

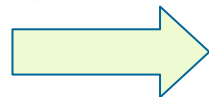
Co-management (CM) とは？

1 政府と資源利用者との間の責任，権限，機能
分担のあり方



両者の共同関係を表す

2 様々なレベルで管理に関する権限を決めるため
の両者の結びつき方



多様な結びつき方

Co-management の特徴 (1)

特徴: Government-Based Management (GM, IM)とSelf-regulatory Management (SM)の中間的な位置

政府の関心

長期的な視点

効率的な管理

地方・資源利用者の関心

短期的な視点

参加, 自律性, 平等性

矛盾, 争い

Co-managementの特徴 (2)

1) 政府, 地域, 資源利用者との間の責任分担方式

Sharing Responsibility

2) 漁民の自律性の発揮

Self-regulation

3) 決定過程に地域と漁民の意思を反映

Participation

4) フォーマルな制度として社会が認知

Formal & Institutional Framework

Co-managementは(地域)資源 環境管理の戦略的な概念

1 応用範囲の広さ



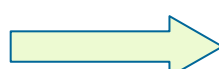
沿岸資源管理はもとより、広く
地域資源一般に適用

2 管理主体の二元性



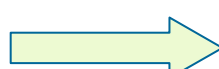
複数の管理主体を想定し、その
間の責任分担を重視

3 対立概念の包含



資源利用と管理に関して矛盾しあう
事項を扱う

4 協力の強調

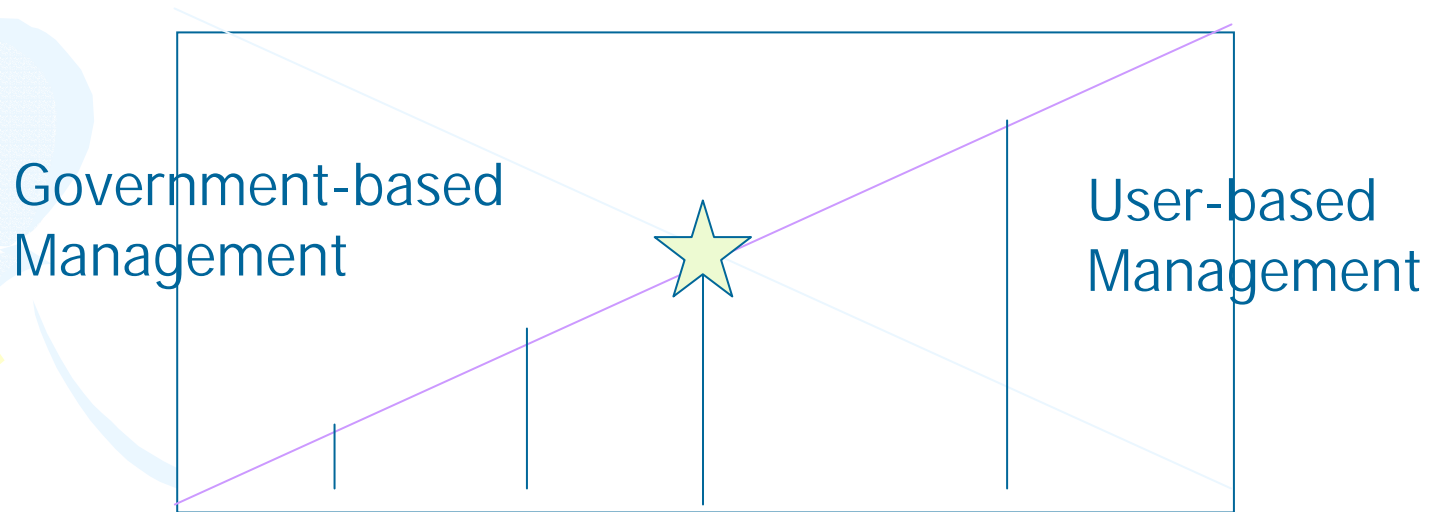


相反する行動をとる管理者と利用者
との協力関係、妥協を強調

Patterns of Co-management

Intervention (介入)

Self-regulation (自律)



Centralization
(中央集権性)



Localization
(地方性)

Top-down



Bottom-up

(Source) Jentoft & Nielsen

Co-managementの発展類型

1) 政府主導段階 (Instructive)

2) 教育指導段階 (Consultative)

3) 協同組合的段階 (Co-operative)

4) 自立段階

5) 完全自立段階

表 CBRMとCMの基本的性格

	政府管理	CM	CBRM
Initiatives (主導権)	中央	中央および 地方	地方
Organization (制度・組織)	フォーマル	フォーマル	インフォーマル
Leadership (指導性)	トップ・ダウン	利用者参加	利用者調整
Control (管理)	中央	中央および 地方	地方
Autonomy (自律性)	無	有 (ある程度)	有
Participation (参加)	無	有	有

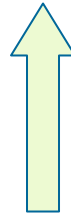
注 Jentoftの整理に加筆・補正。

漁業管理の公平性の確保

Co-management Approach

自律, 自助, 公平

水産行政の監視



大規模漁業者や開発エリート
による資源独占を排除

民主的な運営手続き, 決定過程への参加

協同組合的, 共同体的な理念とシステム

「中間媒体」をめぐる論争

CMを維持するための「中間媒体」

漁民組織, 地方行政組織, etc.

NGOs



参加型の沿岸漁業
管理に相応しい運営
形態を備えた組織

葛藤

政府当局



水産行政の末端に位置
づけ, 漁業権管理などを
担当できる組織



CBRMの発展：地域 資源管理の国家政策

国家開発政策，資源管理政策
への発展－フィリピンでの経験－

地方分権の確立と新漁業法

1991 Local Government Code

- 政府の地方出先機関の人員を地方自治体に配属替え
農業普及員, 水産行政担当職員が多くが地方自治体の職員となる
- 行政権限の委譲
- 立法権限の付与

1998 Fisheries Act (全面改正)

- 市(municipal)単位による漁業管理体制の確立
Municipal Fisheries
- 市の立法権限を利用した利用管理体制の確立(漁業規則, 資源利用規則の制定)

CBRMプロジェクトの成果が生かされる体制作

り

Municipal Fisheries (15km以内)

海 域

Integrated Coastal
Zone Management
(ICZM)

汽 水 域

陸 域

CBFM
(Barangays)

CBFM
(Barangays)

CBFM
(Barangays)

Municipal Government (管理規則, 条例, 罰則などを独自に制定)

多分野にわたる沿岸域管理

フィリピン:セブ島での実践 ((CRMP)

総合的漁村開発と海域管理

漁業管理

(Fisheries Codes of 1998)

村落開発

(Alternative livelihood)

ゾーニング
(サンクチュアリーの設定)

法の実効性

持続的な
企業活動

教 育



総合的な漁村開発として体系化

就業機会の創出

漁獲漁業以外の職業訓練，
協同組合事業による支援，
マイクロ・クレジットの準備

漁獲圧力の削減

持続的な資源利用

TURFsを賦与された資源利用者の
グループ活動



Figure 1. Map of the Olango learning area.

Diving

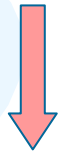




Cebu: ツーリズムと資源管理

マリーン・リゾート化

プライベート・ビーチ, 人工
海浜, 埋立・掘削, 海面囲い
込み, レジャー, ダイブ, etc.



観光業者の経済力・結束力

沿岸漁民を地域から排除

*雇用創出効果は小さい *資源へのダメージは大きい

マス・ツーリズムとの共存は可能

か? ゾーニング, 行政による調整, 漁民の結束

漁村ツーリズム

地域資源の活用



雇用機会の創出

水産物の販売

漁村の文化・社会の理解

観光の秩序化

エコ・ツーリズム, 体験学習, 交流, etc.

環境・資源への負荷をできるだけ小さく！
漁村の内発的発展の力に！

マス・ツーリズムからの接近

地域管理機構への展望

C B R M から L B C R M へ

漁業管理組織

より広い海域を対象

沿岸漁業

村落や地先を越えて営まれる

- 1) 漁村内の漁民間の調整
- 2) 漁村と漁村の調整
- 3) 漁村と地域の調整

Regional Association

漁村, 地方水産行政との責任
分担

新しい Boundary, Zoning の
設定

Banate Bay Resource Management Council の経験

第1段階

Banate市単独の
沿岸域管理

- 1 バランガイ(村)単位で資源管理,ゾーニング計画を設ける
- 2 市議会で管理規則を制定,施行
- 3 資源管理専門委員会を設けることに

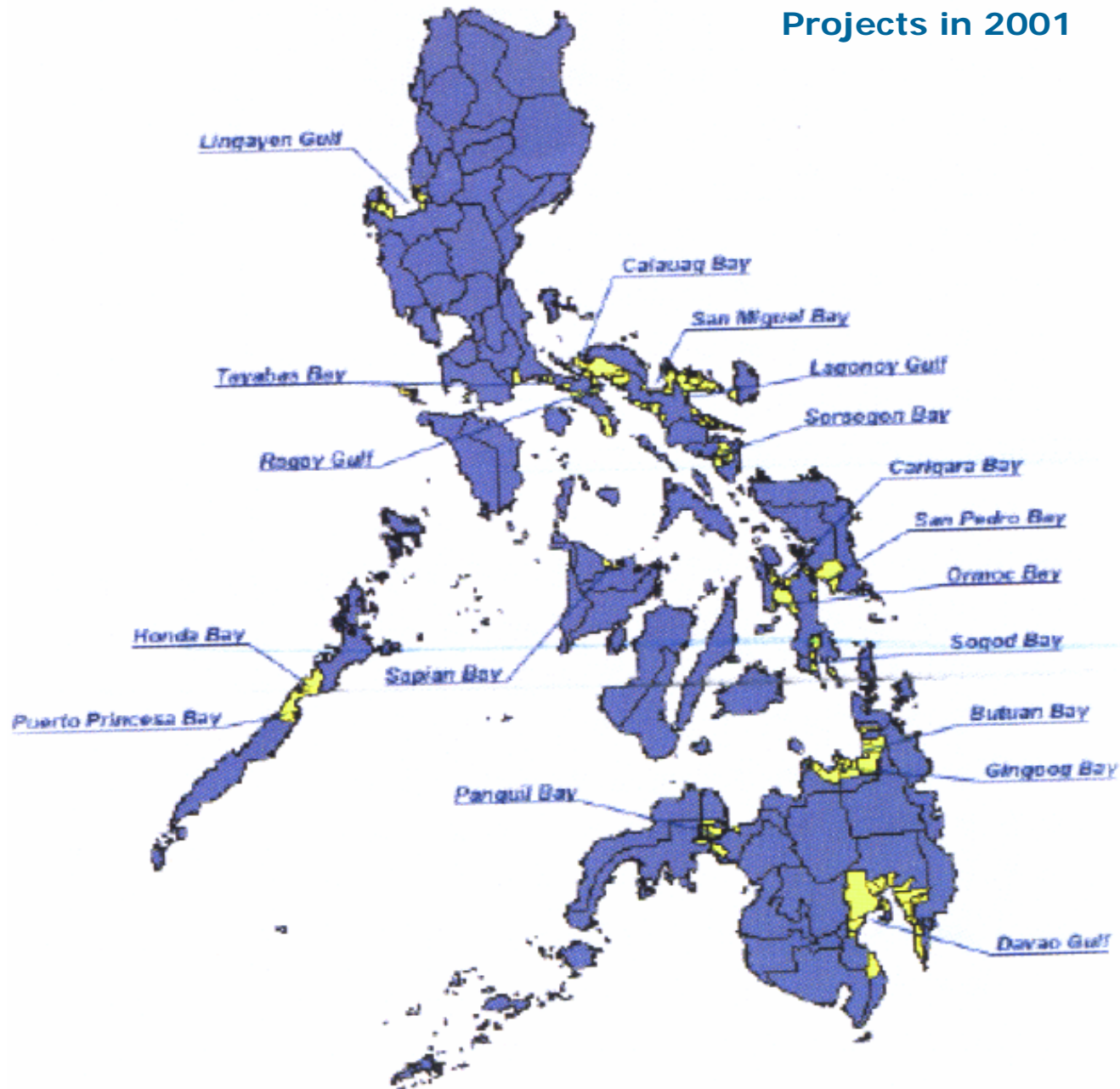
第2段階

Banate湾全体の
管理体系の確立に
向けて

- 1 湾に面した3市が共同して管理することに
- 2 3つの市議会が統一の管理規則を制定,施行
- 3 3市をカバーする資源管理専門委員会の設置



効果的な管理体制が可能に
(管理コストの低減を含む)



第3段階

広域管理体制の確立
に向けたプロジェクトが
各地で開始

- 1 Bureau of Fisheries & Aquatic Resources
によるプロジェクト化（従来のCBRM中心から湾岸
などの広い地域を対象）
- 2 村や資源利用者の取り組みを市条例の制定によって
支援
- 3 広域管理を可能にする情報サービスの提供
(GIS = Geographic Information System)

CBRMが国家レベルの資源管理戦略として
有効であることが認知：

資源利用者，地域住民，地方行政，中央行政などの間に
資源利用と管理をめぐる新しい責任分担方式が生まれる

演習問題

- 1) Community-based Resource Management (CBRM)は、なぜ、地域資源管理の新しい手法として注目を集めているのか。
- 2) 開発途上国では、「新しいコモンズ」を作る運動が盛んになっている。「伝統的なコモンズ」とそれはどのような点で違っているか。

演習問題

3) フィリピンの地方分権制度にもとづく資源・環境管理の優れているところは、どういう点か。日本の沿岸水産資源管理に応用できる点はどのようなところか。

4) フィリピンのCBF(R)Mに関するHPを検索し、どのような地域資源・環境管理プロジェクトが実施されているか調べよ。

分野：森林，マングローブ，サンゴ礁